

青 育 匠

Syo-ryu

平成 1 8 年 (2006 年) 夏 号



天父報恩鼓 演舞

花まつり^{まひに}大般若法要
無 魔 成 満

去る四月二十九日(みどりの日)に、
当山恒例行事である花まつり及び大般若
轉読法要を厳修致しました。

今年、天父報恩鼓という沖繩に伝
わるエイサー太鼓や和太鼓などを組み
合わせた創作太鼓チームが、華麗な踊
りを披露してくれました。

また、毎年ボランティアで仏器磨き
などをしに来てくれる「アットホーム
福山」のメンバーもお手伝いにつけ
てくれ、境内は子供たちであふれて
いました。心配していた天気も回復し
晴天に恵まれ、子供たちのパワーと高
気温とで、境内はものすごい熱気が渦
巻いていました。

我が今田鉦太鼓の若いメンバーも、
焼きそばを作ってくれたり、私の目
指すとても華やかな子供祭りとなり、
賑やかに終わることができました。

来年も活気ある春の大祭を致します
ので、どうぞご期待下さい。

圓光寺通信

墓参用水道 新設

先日、当山総代役員顧問の熊野氏より井戸用ポンプが寄贈されました。それを期に墓参用水道設置案が持ち上がり、この度完成致しましたので、ご報告申し上げます。配電施工はヨシダ電業、ポンプ及び水道設置は守光ホームサービス、そして周辺整地並びに流し排水施工は胡副総代長指揮のもと檀家有志により行われ、その折に副総代長より流し用コンテナ等、大田氏にはセメントその他をご協力いただきました。関係各位には本誌上をもつて厚く御礼申し上げます。



尚、いたずら防止のために常はポンプの電源を切っており、配電盤には施錠をしております。ご使用の際には開錠しスイッチを入れ、使用後は必ずスイッチを切り施錠をしてください。また、水道左側にはバケツや柄杓などの収納庫も設置しましたので、そちらもご自由にお使いください。

お手数をおかけ致しますが、皆様のご協力をお願い致します。

● 開錠番号 879

大施餓鬼のお話し

昔、目連というお釈迦様の弟子がいました。目連尊者は修行に励み、神足通（じんそくつう）という行きたいところに自由に行ける神通力を得ました。その神足通で亡き母はどうしているだろうかと捜していますと、母は餓鬼道に堕ち、身体は痩せ衰え哀れな様子でした。目連は鉢に飯をもり差し出すのですが、母が口元へもつていくと、たちまち火炎と化して食べることができませんでした。



目連尊者は釈尊の元へ行き、事の事情を話し、どうすれば餓鬼道にいる母を救うことができるでしょうかと、教えを請います。

ますと、釈尊は「そなたの母は前世の悪行によつて餓鬼道に堕ちたのです。その母を救うには衆僧に飲食百味を供養することです」と諭されました。教えに従つて供養を尽くしたところ、目連尊者の母は衆僧の神力によつて餓鬼道の苦悩から解放されました。

重ねて「世尊よ、もし未来世の一切衆生で孝養の心あるものが、この目連がなしたるよう供養すれば、父母を救うことができますでしょうか」と尋ねると「孝順の心ある者、父母を思い、兩安居（お盆）に百味の飲食を供え、亡き父母のため供養するならば、一切の苦から脱（のが）れるであろう」と申されました。この故事により、父母報恩の盂蘭盆会（大施餓鬼会）が修されるようになりました。

（盂蘭盆會縁起 抜粋）

行事案内

八月十六日 (水)

午後三時

大施餓鬼法要

於 本堂施餓鬼壇前
(塔婆供養)

当山でも、お盆の末日に、
右記の日程にて大施餓鬼会
を厳修致します。

塔婆(三尺板塔婆)の申
し込みは、既定の用紙に記
入され、なるべく早めに当
山へお持ちになるか郵送し
てください。

塔婆は法要終了後にお渡
し致しますので、各自で各
家墓地にお持ちになり立
てください。

尚、法要後より塔婆を本
堂に並べて置いておきます
ので、当日お参りできない
方はご都合の良い日に取り
来られ、ご自由に本堂より
お持ち帰りください。

(連絡不要)

《キリトリ》

年間行事表

三月十九日

春季彼岸会

土砂加持法要

午後一時

(経木塔婆供養)

四月二十九日

花まつり 普に

大般若法要

午後一時

大般若寶牘 祈禱
花御籤会(くじ引き)

八月十六日

大施餓鬼法要

午後三時

(塔婆供養)

十二月二十一日

大師講法要

午後一時
(経木塔婆供養)

供影御

供尊本

弘法大師報恩

不動明王 祈禱護摩

毎月二十一日

毎月二十八日

毎月二十一日

毎月二十八日

毎月二十一日

毎月二十八日

毎月二十一日

毎月二十八日

毎月二十一日

毎月二十八日

青龍山圓光寺

《キリトリ》

写経会のご案内

当山では、本堂にて月
例の毎法要に写経会をし
ております。尚、法要日
以外の平素にも写経をし
ていただけますよう、常
に筆ペンなどご用意致し
ておりますので、お気軽
にご来山下さい。

また自宅ですれる方は、
本堂より写経用紙を自由
にお持ち帰り下さい。

(写経用紙)

一枚 百円



訂正とお詫び

前号に祈禱願意一覧
と併せて掲載しました
「年間行事予定表」に一
部誤りと欠如がござい
ましたので、ここに謹
んで訂正しお詫び申し
上げます。

上記に訂正しました
表を掲載致しましたの
で、きりとり線より離
しお差し替えいただき
ますよう、宜しくお願
い申し上げます。

戒名つてなに？

戒名とは、仏教徒として仏門に入ったことの証しに授かる名前のことです。現在では、葬儀の際に授かるのが一般的です。死後の名前と思われがちですが、正しくはそうではありません。

僧侶は、出家得度の時に師僧から戒を授かり（受戒）、仏門に入ること許可されて、名前（僧名）を与えられます。戒名も僧名と同じく、受戒して与えられる名前です。生前に戒名を授かる方もおられます。葬儀では導師が、故人に対して受戒を行いますので、生前に葬儀の際に受けるかの違いはあれど、授かる意義に違いはありません。

僧侶は得度の際に、仮名（けみょう）と実名（じつみょう）という二つの名前を授かります。ちなみに拙僧の場合、仮名が「空崇」で実名が「慈興」、現在の僧階は「大僧都」です。僧階とは修行や勉強の程度によって変わる僧侶の学階で、戒名でいえば位号（居士・信士等）がそれにあたります。これらを寺名とともにまとめて記すと「圓光寺空崇慈興大僧都」となります。皆さんの授かる戒名と似ているでしょう。

新生児は、血脈を継ぐ証しとして思いの込められた名前を受けます。僧名や戒名も同じく、仏教の法脈を継ぐ者の証しとして、師僧から授かる名前なのです。そこには、その人の命や教えを蒙る師なる者との繋がりがあるのです。ですから、戒名を自分でつけるということはありえませんし、いわば先人との繋がりを無視する行為といえるでしょう。

俳句・短歌

銀色の 光がおどる 朝川に

鴨の嘴ある 時は消ゆ

某女

祈祷案内

● 本尊護摩祈祷 木贖 三千元也
志納料 一幣

● 本尊護摩祈祷 添護摩木 五百円也
志納料 一本

● 本尊護摩祈祷 腕念珠（瑠璃石） 一万円也
志納料 一本

● 不動尊 祈願幟旗 五千円也
幟旗志納料 一旗

● 水子地藏尊 奉納 五千円也
開眼回向料 一鉢

● 安産祈祷（妊婦加持） 腹帯・護符 授与

志納金 一組 一萬円也



各々ご希望の方は、当山寺務所までお申し出下さい。また、厄年御祓など右記以外の特別祈祷も致しますので、ご要望の方は当山へお気軽にお尋ねください。

編集後記

◆今年、天候不順のせいで草花の開花が遅く、花御堂を飾るための花が少なく困りました。しかし、お手伝いの方々に奔走していただき、多くの方のご協力を得て無事花御堂が完成。つじの代わりにパンジーをあしらったりと、花壇の花まで使って出来上がった花御堂は、例年のない華やかさでした。飾り付けのお手伝いの方、お花をご提供いただいた方々には、心より感謝し御礼申し上げます。

◆華麗な花御堂に相応しく、祭では天父報恩鼓の演舞も輝かしく披露され、名の通り花まつりとなり、大変満足しています。踊る子供たちを見て、改めて伝統芸能の良さを思い出しました。ここ今津野に伝わる鉦太鼓の良さも、地域の皆さんにもっと知っていただきたいなと思います。

◆最近、「死の壁」という養老孟司氏の本を読みました。医者（医学部教授）からみた死について書かれており、私の知らない見解が面白かった。皆さんにもお勧めします。死については宗教なしには語れないので、本文中にも触れる箇所があるのですが、そこも医者側で書かれているので、誤解のないように。その箇所は上記の「ブチ雑学」を参考に読んでください。

悩みごと相談

日頃、疑問に思うことや、誰に聞いたらよいか悩んでいることはありませんか？仏事だけでなく何でも結構です。できる限り調べて答えします。手紙・電話・ファックス・Eメール（左記参照）等でお気軽にお尋ねください。

ホームページアドレス <http://www.enkouji.net>

発行所：宗教法人 圓光寺

〒722-1564 広島県尾道市御調町今田 76

Tel 0848-77-1017 Fax 0848-77-1033

E-mail: enkouji@ymail.plala.or.jp

平成 18 年 6 月 1 日 発行

編集及び印刷者：岡本 慈興

非売品